8　まとめ

ここでは神戸市内で過去１０年間に発生した放火火災２６４４件を分析した．建物以外の空間は圧倒的に夜間で放火が発生している．建物以外の空間は，路上・公園などの公共空間であることから，人の自然監視性が放火発生に関係していると考える．また，一般住宅，共同住宅，複合用途建物は夜間，昼間の差が建物以外の空間より極めて少なく，これは建物構造上，死角が多く昼間でも自然監視が届かない空間がある為と考える．

従来から云われている公共空間等におけるゴミの管理の問題は放火抑制の重要な要素の１つであるが，さらに共同住宅・複合用途建物・一般住宅とそれらの敷地内においては昼間でも放火が発生していることから不審者のアクセスの制御や監視性の強化も重要な要素である．特に一般住宅においては延焼火災の割合が多く，出火箇所としても居室内に放火している割合が高いことから放火対象物（着火物）の排除は当然として不審者の侵入を防ぐことも大変重要である．

放火防止対策の主な項目として，着火物のコントロール，アクセスのコントロール，放火行為自体のコントロールがあるが，分析の結果から，これらの放火防止対策を上手に組み合わせることが重要であり，アクセスのコントロールは侵入窃盗に対して．また放火行為のコントロールは自然監視性の強化であるから，これは侵入窃盗犯罪や性犯罪にも役に立つ空間の制御手法（防犯手法）である．